

女性写真グループ
「朝日フォトレディース
薈(つぼみ)」支部長

しば た えつ こ
柴田悦子さん



プロフィール

1949年、大阪府守口市生れ。寝屋川高校から武庫川女子大学に進学するも、母親の看病のため退学。26歳で結婚。子どもが幼稚園時代、パンやケーキ作りを学ぶため通った料理教室で実績が認められ、講師に。02年に教務担当で退職する直前まで、京都エリアの責任者として経営にも参画した。退職前の01年9月から全日本写真連盟主催の写真講座を受講。修了者で同年秋に誕生した「朝日フォトレディース薈(つぼみ)」の支部長に。他にも写真クラブ「フォークラブなにわ」を結成するなど活躍中。

写真を通して、 人と人とのつながりを広げたい

「ずっと、室内と言うか屋内で仕事をしていたので、(3年前の)退職に合わせて、何か外に出てやれるものかと考えて、写真講座を選んだのです」と笑顔を見せるのは、現在、女性写真グループ「朝日フォトレディース薈(つぼみ)」の支部長として活動する柴田悦子さんである。

このグループは、2001年秋に行われた「写真講座」(全日本写真連盟大阪府本部主催)の修了者から有志約30人が賛同して同年11月に発足。年齢層は27歳から75歳までと幅広く、主婦を中心に公務員や大学講師、会社事務員など顔ぶれも多彩だ。

北区の大阪市立総合生涯学習センターに活動拠点を置き、毎月、例会(第2日曜)と撮影会(第4土曜)を開催。全日本写真連盟委員の佐野清さんを講師に、撮影実習や講義などで「個性と感性を磨いて」いる。

活動は、会員だけの研鑽にとどまらない。昨年10月には、総合生涯学習センターと市民が「協働」して新しい生涯学習のかたちを目指す「生涯学習

ネットワーク事業」の一環として、写真講座「カメラを持って出かけませんか!」を開催。今年4月、修了者有志15人の参加で新クラブ「フォークラブなにわ」を結成した。こちらは、男女混合である。

会員の作品は、半年に1回のペースで開催されている写真展で発表されており、11月の生涯学習フェスティバル(20日、21日)でも、写真展で登場する。

今月で『薈』が発足満3年を迎えた。主として土・日に活動しているが、主婦も多いだけに、運営上の悩みや制約も。「クラブをやっていると、女性がいかに家庭に縛られているかが分かりますね。たとえば、午後3時くらいになると、夕食の用意が頭をよぎるとか(笑)」。

とはいえ柴田さんには、「写真を通して、人と人とのつながりを広げたい」との意識が強い。「楽しい事をやれば、興味を持つ人や参加者が増えてクラブの活性化にもつながる」との思いもある。11月に開催される初の1泊撮影ツアーも、こうした期待が色濃く込められた行事なのだ。

ご本人が「ちょっと強引かも」と言う

個性は、14年間勤めていた料理教室で、経営にも関わった退職前の数年間の経験から導き出されたものなのだろう。

ところで、写真を撮る最大の魅力が「見過ごしていたものに興味を抱くようになったこと」と表現する。その結果、「ダンジリなら、引き回している場面より裏道の子どもや働く女性の姿。時代祭なら、行列より準備中の顔や終わって緊張感の抜けた表情とか、「裏の顔」に目が向くようになった」と。

会員の切磋琢磨ぶりは、写真専門の月刊誌や季刊誌のコンクールで入選の常連になりつつあることが証明する。この「業績」に柴田さん、「発足当初は、自分の撮った写真の面影が無いほど切り取られていましたが、最近ではトリミングなしで先生のOKがでる」と頬を緩めながら、「来年1月にはネットワーククラブで『薈』主催の写真講座を。3月には、『薈』と『なにわ』の合同写真展も予定しています。あなたも写真クラブに参加しませんか」と呼びかけている。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)

(総合生涯学習センター・ネットワークサロンにて / 写真・本誌編集部)